

目指す学校像	豊かな心を持ち、たくましく生きる児童を育成する学校
--------	---------------------------

重点目標	1 学びを自律化し、基礎・基本の徹底と可能性を最大限に伸ばす個別最適な学習を実現する。 2 安心・安全で、教育相談体制が充実し、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する。 3 コミュニティ・スクールを運営し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する。 4 一人ひとりの教職員にライフステージに合った成長を促し、働き甲斐のある職場環境をつくる。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査では学習に対する関心・意欲・態度に関して肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べてやや高い。 ○算数で多様なやり方を追究したり、調べたことを整理してまとめてプレゼンテーションしたりすることに意欲的な児童は多い。 (課題) ○学習意欲や基礎・基本の力が十分でない児童が一部いる。 ○各教科で、中位・上位にいる子ども達の能力をさらに伸ばすことができる余地はあると考えられる。	・学びを自律化し、基礎・基本の徹底の習得を図る ・学びを自律化し、個別最適な学習や探求的な学習の充実を図る	① 日頃の授業やスタディサプリ、ドリルパーク等を活用し、基礎・基本の徹底を習得する。 ② 市の学習状況調査での学習に対する関心・意欲・態度の結果や国の学力調査の結果を授業に生かし指導する。 ① 各教員が、タブレットを使った個別最適な学習や探求的な学習を目指して授業を行う。児童に自分の考えを表現する際に、オクリンクやムーブノートを積極的に活用させる。 ② NIE 実践校として、探求的な学習を増やす。	① 日頃の授業の様子やまとめのテストの結果から、各教科の基礎・基本を習得できたか。 ② 学校評価の児童の調査結果(進んで学習している)が昨年度(93.4%)と同等以上。 ① 国や市の学力・学習状況調査の児童の調査結果が国や市の平均以上であったか。 ② よい授業の因子④が昨年度(17.0)と同等以上であったか。				
2	(現状) ○国・市の調査において、「学校に行くのが楽しいですか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、平均を上回った。 ○昨年度、休日に自転車に乗って車と接触し頭を打って数日休んだ児童が1名いた。 ○リフレッシュ工事で、授業中の騒音がひどいため業者に申し入れたことがよくあった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感等が心配されている。心と生活のアンケートの結果に対する対応が大切である。 ○人間関係プログラムや特別活動を充実し、一人ひとりの児童に豊かな人間関係を作ることができるようにする。 ○工事業者に対応し、教育活動が損なわれない環境を維持する。	・防災・事故防止を図るとともに、教育相談体制を確立し、安心・安全な学校をつくる ・人間関係プログラムや特別活動を充実し、豊かな人間関係を作れる学校をつくる	① 交通安全教室や避難訓練等を通して、児童に自らの安全を確保する技術と覚悟を育成する。 ② 教育相談体制を整え、いじめの防止や早期発見を組織的に取り組む。 ③ 騒音等教育活動を阻害するような状況があったら、職員室に連絡する体制をつくる。 ① 縦割り活動を通して、豊かな人間関係づくりを推進する。 ② 各担任に一人ひとりを大切にす学級経営ができるように日々指導していく。 ③ 人間関係プログラム等を通して、人間関係をつくる素地指導をする。	① 学校評価の児童の調査結果(健康で安全な生活をおくっている)が昨年度(90.2%)と同等以上であったか。 ② 学校評価の児童の調査結果(困ったときに相談できる先生がいる)が昨年度(94.6%)と同等以上であったか。 ① 学校評価の児童の調査結果(友達と仲良く協力している)が昨年度(95.9%)と同等以上であったか。				
3	(現状) ○昨年度に学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、実態や目指す児童の姿等について熟議した。 (課題) ○昨年度に学校運営協議会準備委員会で共有したことを確認し、家庭・地域とどのように協力し対応していくのか検討し、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・家庭や地域とどのように協力体制を作り、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す	① 学校運営協議会を年に3回開き、毎回参加者全員から意見をいただき、保護者・地域と連携を進める。会議の報告を毎回ホームページに掲載する。	① 学校評価で保護者から家庭・地域との連携に係る肯定的回答が、80%以上であったか。(昨年度評価なし)				

4	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○教科担任制を本格的に実施したのは、今年度からである。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用について、教員間や学年間で取組の差がやや見られる。エバンジェリストと連携し、研修を進める。 ○教科担任制の機能性や専門性を高めるためには、時間をかけ実践を積み重ね、成果と課題をまとめる必要がある。 ○今年度から国語と算数で表現力の向上を目指した学校課題研究に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さいたま市GIGAスクール構想」を推進するために、エバンジェリスト等と研修会や打合せを充実させる。 ・教科担任制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「さいたま市GIGAスクール構想」を推進するために、エバンジェリスト等と研修会や打合せを月に一回以上開催する。 ② 他校からよりよい教科担任制の情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全ての教員が、同じレベルでタブレットを使用した授業ができるようになったか。 ② 高学年の教科担任制の授業が円滑に続けることができたか。 ③ 学校評価で教職員から自分の仕事ぶりに係る自己評価の肯定的回答が、80%以上であったか。(昨年度評価なし) ④ 「よい授業」アンケートの結果の平均値が昨年度(16.9)と同等以上であったか。 			
---	---	--	---	---	--	--	--